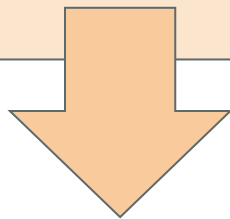


障がいのある子
供が通える学校
を作る！

schoolチーム

テーマ設定の理由

きっかけは、学校外から来て下さった方のお話！！
社会人講師(株)minashia岡山晃一郎さんのお話
↳ 静岡には5400人、サポートが必要な人がいる。
障がいがある子供が通う学校が圧倒的に少ない！



障がいがある子供が通える学校を作るをテーマにしました。

まず、支援学校について知るためにインタビューを行いました！

インタビューにご協力してくださったのは、

吉田恵美子様

- ・ 焼津のスープ屋さんHygge
(ヒュゲを経営)
- ・ 特別支援に詳しい

鈴木 和祐様

- ・ 静岡北特別支援学校校長

コロナ過でのインタビューだった為、電話でのインタビューを行いました。

インタビューでわかったこと (吉田恵美子様)



どのような活動をしているのか⇒市民活動・NPO法人・子供たちへの支援・一般社団法人・不登校の子供たちにアンケート・夜間中学

課題⇒理事をしていて、新しい人達に活動を手渡したいがコロナで出来なくなっている。

解決するために何をしているのか⇒話し合いをオンラインにする。

学校に通う人の変化⇒変化はあり。増えてきている。

インタビューでわかったこと (静岡北特別支援学校様)

『健常者と障がい者の交流をしている』

→遠い地域から特別支援学校に通っている子を住んでいる地域で孤立させないようにするため。

「利点」

→障がい者の子は友達が増える、話し相手ができる。健常者の子も障がい者に対しての配慮の仕方、障がいについて知る良い機会ができる。

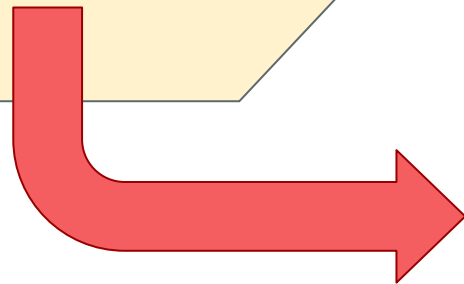
「その他」

特別支援学校と特別支援学級の違いは差程なく、特別支援学校では社会に出て困らないような学習をしていることが分かりました。

私たちが出来ること=健常者と障害者の交流の場を作る



そこで私たちが考えたのが、手紙での交流です。



手紙での交流方法

特別支援学校さんと市内の一般中学校との交流



双方に許可をとる



特別支援学校さんの中等部(23名)と一般中学校の2年生(29名?)に

手紙を書いてもらう



手紙交換

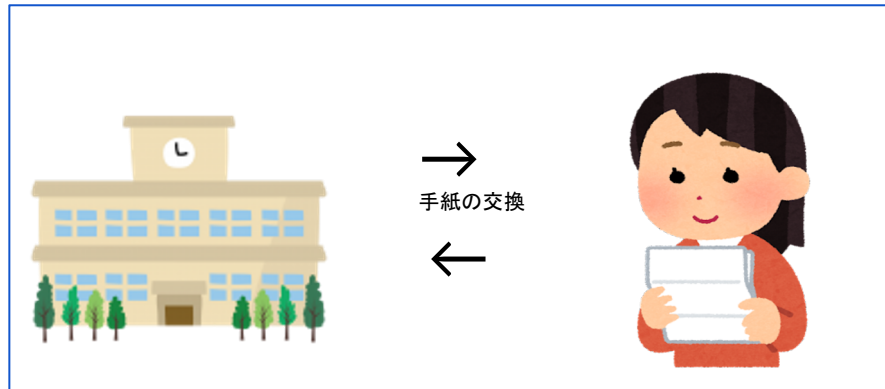
(この時双方の中学校がどこの学校と手紙交換をしたか知らせずに
交換してもらう)



交換した後にネタばらしする
【この方が楽しく手紙交換できるのではないかと思います!】



手紙交換した感想を生徒や先生に聞く



今回の活動を通して気づいたこと・反省点

気付いたこと

- ・手紙交換の際、相手の子の顔を見ないと手紙を書くことが難しい、多くの期間が必要と障がいを持っている子達と私たちの違いに気づけた。
- ・コロナの影響により交流活動に支障が生まれているということ。

反省点

- ・双方の都合などにより今回の活動を実施することが出来なかった
- ・最終報告会に間に合わせる事が出来なかった
- ・最終目標である「障害を持っている子供が通える学校を作る」までに活動を進められなかった
- ・直接の交流がある学校とじゃないと交流が難しかった。

今後の活動について

- ・ 健常者と障害者の交流の場を増やす
(例えば、場所を儲けて交流する場を作る)
- ・ コロナの影響が少なくなったところで、直接交流するなど
触れ合える機会を増やし、障がいについて改めて考えてみたり、
偏見などを変えて欲しい。
- ・ 今回出来なかった特別支援学校と非特別支援学校の交流の場を作る
(手紙交換、学校交流など)

静岡市への提案

- ・ 障がいを持っている人への接し方、配慮の仕方などの講演を各小中高でもらう。
- ・ 障がいを持っている人達がもっと色々なところで活躍出来る場を作る。
- ・ 特別支援学校、特別支援学級の数を増やす。
- ・ 特別支援学級と通常学級の交流の機会を学校内で多くとる。